

遺伝的に異なるキキョウ科ツリガネニンジン類の 2 変種の実態と種分化過程の解明

【代表者】

岡崎純子 大阪教育大学 准教授

【共同研究者】

名波哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

キキョウ科ツリガネニンジン類は多型的な広域分布種で日本国内ではツリガネニンジン、サイヨウシャジン、オトメシャジンの 3 変種が認識されている（岡崎，2017）。局所的に分布するオトメシャジンを除く 2 変種は形態的には区別は難しいが、葉緑体ハプロタイプでは明らかに区別できる種内分類群である。ツリガネニンジン類のような広域分布種の種分化過程を明らかにしていくためには、その変異の実態とその進化要因を明らかにしていく必要がある。申請者らは昨年度の申請研究で、ツリガネニンジン類について伊勢志摩地域での本土と離島の調査から、島嶼間で形態的な集団内変異が非常に大きいことを明らかにし、サンプル数は少ないがこれには分布するハプロタイプ(変種)が集団間で異なっていることや集団によっては異なる変種が同所的に分布する可能性を示した。

本研究ではこれを発展させ、本植物の種分化過程を明らかにするため、遺伝マーカーとしての葉緑体ハプロタイプ多型を用いて、その地域集団における 2 変種の共存実態とハプロタイプと形態との関連性を明確にするとともに、その種分化要因として訪花昆虫相に関連性があるのかを検証する。